

芦別の炭鉱遺産を含む「炭鉄港」が日本遺産に認定されました

星槎大学



旧三井芦別鉄道炭山川橋梁

芦別市を含む道内12市町が共同で申請していた産業遺産「炭鉄港」が、5月20日、文化庁が認定する日本遺産に選ばれました。

日本遺産は地域の歴史的魅力や特色を、日本の文化・伝統を語るストーリーとして発信しようと文化庁が設けた制度。

北海道の発展を支えた空知の炭

鉱、室蘭の鉄鋼、小樽の港湾とそれらを結ぶ鉄道をテーマとした「炭鉄港」は、炭鉱跡や建造物、美術工芸品など45の文化財で構成されています。

芦別市では星槎大学（旧頼城小学校）校舎および体育館、旧三井芦別鉄道炭山川橋梁の二つが構成文化財として認定されました。

カナディアンワールド公園で花壇整備のボランティア

5月25日、第1回ボランティアデーがカナディアンワールド公園で開催されました。当日は快晴で気温が高い中、105人の市民ボランティアが集まり花壇の整備や花の苗植えなどを行いました。

本格的な観光シーズンに綺麗な施設で来園客を迎え入れるため、

メイン通路や入口の花壇などに植えられた花の苗はマリーゴールドやペチュニア、サルビアなどをはじめ9種類2,200株。

澄み切った青空のもと、集まった多くのボランティアがシャベルやスコップを片手に心地よい汗を流していました。



スポーツで元気なまちづくり「チャレンジデー2019」2年連続で勝利



今年で8回目の参加となった「チャレンジデー2019」が、5月29日に行われました。これは人口規模がほぼ同じ自治体同士が、15分以上継続して運動やスポーツをした方の参加率を競い合う住民参加型のスポーツイベントで、今年は人口11,164人の長野県佐久穂町と対戦。

当日は各所でラジオ体操が行われたほか、ウォーキングやタグラグビー、笑いヨガなど多彩な企画も実施され、多くの市民が参加しました。

対戦結果は、佐久穂町の参加率43.5%（参加者4,856人）に対し、芦別市は参加率46.9%（参加者6,395人）となり、芦別市が勝利しました。

障がい者支援施設「星の広場」新しい施設が完成

社会福祉法人愛和福祉会が運営する通所型の障がい者支援施設「星の広場」の新施設が完成し、6月1日、新施設内において落成記念式典が行われました。

旧施設の老朽化や利用者の高齢化などに伴い、より安心安全な環境を確保するため昨年5月30日に施工開始。建築期間1年を経て完成した新

施設は鉄骨造樹脂シートぶき平家建てで、食堂やトイレ・浴室をはじめ、作業室や活動室など多目的に活用できる部屋を完備。

当日は新施設の内覧会や祝賀会も行われ、多くの来賓や関係者が出席しました。式辞の中で愛和福祉会林理事長は「芦別全般の発展に寄与していきたい」と話していました。



社会福祉法人愛和福祉会
星の広場 新築落成記念式典